人と音を結ぶ
Classic Nagoya
クラシック名古屋
〒460-0024
名古屋市中区正木四丁目8番7号れんが橋1F
TEL(052)678-5310 FAX(052)678-5330
http://clanago.com
プレイガイド
アイ・チケット
☎0570-00-5310
Motty

ナゴヤ劇場ジャーナル®

◆発行／マネージメント・プロ　◆編集／プランニングオフィス白壁　◆協賛／クラシック名古屋

MANAGEMENT PRO
業務内容
①舞台・イベントの企画・制作・マネージメント
②芸術コンサルティング
③タレントのマネージメント
④ナゴヤ劇場ジャーナルの発行
マネっちゃ
株式会社マネージメント・プロ
〒461-0004 名古屋市東区葵2-11-22 アバンテージ葵ビル301
TEL：052-508-5095　FAX：052-508-5097
E-mail：mane-pro@mane-pro.com
HP：http://www.mane-pro.com

バッハで怪談〝耳なし芳一〟

新進「岩男組」前代未聞の音楽劇

9月3～5日 千種文化小劇場

バッハの名曲とともに展開される〝世にも奇妙な物語〟。新進のプロデュース軍団「岩男組」（主宰・岩男考哲）による「怪談音楽劇～踊るBACH芳一」が9月3日（午後6時30分）4日（午後2時と5時）5日（午前11時と午後2時）千種文化小劇場で上演される。

小泉八雲の著書「怪談～耳なし芳一のはなし」で広く知られるようになった平安時代の怪奇ドラマ。盲目の琵琶法師・芳一が、平家の邪悪な怨霊に取り付かれて体験する未曾有の恐怖。その世界観を演技と舞踊、バッハと生演奏を交えて描出する。

脚本、演出はROCKMAN。出演は森本涼平（芳一）、森悠希乃（伊勢姫）ら13人の俳優と演奏者6人（和太鼓4、サクソフォン、コントラバス各1）。使用されるバッハの曲は「ブランデンブルク協奏曲」「無伴奏チェロ組曲」「G線上のアリア」ほか。

「舞踊経験があり、演技力にも定評のある若い俳優を集めました。おどろおどろしい原作の魅力を、和洋を取り交ぜた演技と音楽、舞踊で描き上げたい。芳一が悪霊に両耳を引きちぎられるシーンは必見です」と演出のROCKMAN。

なお、9月4日午後5時の部はプレミアム公演で、愛知県立松蔭高校太鼓部の卒業生で結成する「和太鼓おかげ」の生演奏とアフタートークが付く。

全自由席2000（プレミアム公演2500）円。詳しくは「岩男組」で検索。

「怪談音楽劇～踊るBACH芳一」の出演者

シャンソンの扉

150 水野 慎太郎

名古屋でタンゴブーム巻き起こす

悲しみを乗り越えて…

「シャンソンの街・名古屋」を「タンゴの街」にもしたい―。愛知県みよし市在住のヴァイオリニスト水野慎太郎が「エルム」でライブを行った。

ギタリストだった父親の勧めで幼少からヴァイオリンを始めた水野。「言われるままに、いやいや習っていました（苦笑）。自我に目覚めた中学時代に一度やめ、高校生になって、改めて再開しました」。そして名古屋芸大に進学。ヴァイオリンが人生のパートナーになった。

実は昨年4月、水野は連れ合いを亡くしている。あまりに早い別れだった。彼は悲しみを音楽に転化し、亡き妻へのレクイエム「四月の蝶」（作曲・綾部美和子）を創作。エルムでも1曲目に演奏した。優しく穏やかな曲である。「いつまでも（妻の死を）引きずってはいられない」。曲のラストには、そんな思いも感じられた。

水野は2004年から2年間、チェコ共和国の首都プラハに音楽留学。現地の音楽仲間とタンゴバンドを結成しヨーロッパ各地を巡った。その後、本場アルゼンチンに渡りピアソラ5重奏団ヴァイオリニストのスアレスパスに師事。帰国後はジャズヴァイオリニストとしても活動。後進の育成にも勢力を注いでいる。

箏曲・野村祐子がCDとテキスト

東海地区を代表する箏曲奏者の野村祐子（箏曲正絃社家元）が10作目のCDアルバム「箏・三絃コンサート～愛と祈りの調べ」（写真＝3300円）と、楽譜テキスト「箏曲小曲集」（No.11、12、13＝各1540円）を出した。

CDには滋賀県三曲協会創立50周年記念曲「近江夢紀行」、全国の茶所や茶の効能などを歌詞にした「御茶紀行」、第9回中島勝祐創作賞受賞作の「桜花三章」など、野村祐子作曲作品を収録。

テキストには「上を向いて歩こう」「さとうきび畑」「マリーゴールド」「鬼滅の刃より炎」ほかを「同音、同調子の二部合奏」で掲載。初心者には弾きやすく、高度な演奏の基礎になるように編さんされている。

問い合わせは℡052（241）2114、正絃社。

舞台批評

夜久ゆかり振付の「MY WAY」

4グループ「再生」テーマに熱演

現代舞踊中部支部

現代舞踊協会中部支部が第8回「モダンダンスエクステンション」（6月26日・芸術劇場小ホール）を開催。4グループが、それぞれオリジナル作品を初演した。

コロナ渦中の上演とあって、4作とも〝再生〟をテーマにした作品になったが、その表現方法は群舞を主流にした2作と、主演ダンサーを際立たせた2作に分かれた。ここでは私が強く引かれた群舞2作について書かせていただく。

Hide dance lab メンバーによる「境界線」（振付／クローバー・D・pj）には「演出／JIN HIRO」の記載があった。30年以上前から現代舞踊を見てきたが、演出家が記載されていたのは初めてのことである。私は機会あるごとに「自作自演の多い現代舞踊には、客観的に作品を評価できる演出家が絶対に必要」と書いてきたが、ようやくそれが実現した。

今回の「境界線」に、どの程度演出家の手腕が発揮されたかは定かでないが、ダンサーたちは滅びゆく生命の行く末を、巧みなムーブメントで表出した。Hide dance lab の前向きな姿勢には今後も大いに期待したい。

もう1作は夜久ゆかり振付の「MY WAY」だ。こちらに演出家はいないが、多くのスタッフ、ダンサーによって磨き上げられたに違いない秀作だった。「どのような世になろうと、自分の力と才覚で生き抜こう！」といったテーマである。

このグループのダンスは豪快で、プロレスを見るような興奮がある。男性が2人いることで迫力が倍増し、世界観が広がる。私には、闘う彼らの姿が、香港の若者たちにオーバーラップした。またダンサーに劣らぬ働きをした照明（青代富枝）にも拍手。

レオタードのご購入
1枚からでも大丈夫
送料無料
Dansk ate　Ballet Aoyama　Wear Mai　Grishko
バレエ用品の Dansk ate ダンスケイト
住所 〒460-0008 愛知県名古屋市中区栄3丁目11-23 白川本町ビル5F（大橋幾商店の上です）
電話番号 052-265-7900
パソコン・スマホからのご注文は https://danskate.com

HITOMI HALL Prism Stage
NAGOYA NIKIKAI
名古屋二期会創立50周年記念 2021年定期オペラ公演
プレコンサート
魔笛の魅力
裏側に迫ればもっとおもしろいっ！
謎や秘密も楽しもう!?
私がご案内いたします！
小堀勝啓（フリーアナウンサー）
2021 8/19（木）
1ST 14:00開演（13:30開場）
2ND 19:00開演（18:30開場）
チケット料金 前売り 当日ともに 1,000円（全自由席）
※未就学児童の入場はご遠慮ください。
※前売りの時点でチケットが売り切れてしまう場合、当日券の販売はありませんのでご注意ください
出演
1ST 水谷和樹／上ノ坊航也／田中喜子／天野久美／愛知智絵／野々山敬之／田中純一
2ND 伊藤貴之／大久保亮／山口満希子／小原美並／太田麻華／奥村晃平／山崎太郎
《共通》ピアノ：石山英明　ご案内役：小堀勝啓
●制作プロデューサー／楠部享子
※状況によりお客様の安全なご参加が難しいと判断した場合、直前の公演中止等の可能性があります。最新の情報は、メニコンビジネスアシスト（MBA）イベント・クリエーション部のウェブサイトでご確認ください。
公演の詳細は メニコンビジネスアシスト（MBA）イベント・クリエーション部 電話 052-935-1630（平日10:00～18:00）夏季休業8月13日～17日
HITOMI HALL HITOMIホール 名古屋市中区葵三丁目21番19号 メニコンANNEX 5F

舞台批評

奔放かつ多彩なステップで魅了

イスラエル・ガルバン

2016年の「あいちトリエンナーレ」で、その圧倒的なパワーとテクニックを目の当たりにして以来、「イスラエル・ガルバン」の名は、東海地区のダンス界に知れ渡った。このスペイン出身のダンサーは、日本人が抽くフラメンコの概念を粉砕し、まったく新たなダンスジャンルを確立した。それもたった一人でだ。

ガルバンの3度目の愛知公演「春の祭典」（6月23、24日・芸術劇場コンサートホール）を見た。ストラヴィンスキーのバレエ音楽「春の祭典」を2台のピアノで演奏し、ガルバンは踏み鳴らすステップで競演した。

ステージ下手には2台のピアノ（演奏は片山柊と増田達斗）、それ以外のスペースには桶（おけ）のような大小の台や、ジャリの山など、ガルバンが様々な音を出すための〝楽器〟が置かれている。

「春の祭典」（© Naoshi Hatori）

ガルバンのステップが生む音は様々に表情を変化させ、2台のピアノに同調し、やがて圧倒する。見せるダンスと聴かせるダンス、そして精密なピアノ演奏と、楽譜の支配から逃れた奔放なステップが混在し、聴衆（観客）を陶酔させたのである。

惜しいのは、主作品である「春の祭典」を先行させ、その後に小品2曲を演奏したこと。途中で緊張の糸がプツリと消えてしまったのは筆者だけではないと思うが、いかがなものか。

異彩放った神原振付「遊びの流儀」

ゆかりバレエ

バレエだけでなく、モダンやコンテンポラリー作品を見ることができるのが「ゆかりバレエ公演」（7月4日・芸術創造センター）だ。

「遊びの流儀」（© エーアイ・山崎光彦）

今回は主宰者・神原ゆかりの「舞踊生活50周年記念公演」。神原の絞り込まれたスタイル、流れるようなムービングを目の当たりにすると「ほんとに50周年？」と、誰もが思うに違いない。神がかり的な努力と節制の賜物である。

主作品になったのは、神原が敬愛してきた故・望月則彦振付の「マルグリットの告白」と佐多達枝・振付の「バレエ組曲」の創作バレエ2作。初演以来、リメークを重ねて来た、ゆかりバレエの代表作である。

上演を重ねても色あせないのが前者。舞台後方の幕を途中まで下ろし、演者の足だけを見せて物語の経過を見せる望月の演出は何度見ても感心する。後者はスピーディーでチャーミングな作品だったが、ダンサーのレベルが均一でないために、振りの面白さが半減した。

主作品以外では、神原が振り付け生徒13人が4人編成の室内楽（生演奏）で踊った「遊びの流儀」が気目を引いた。ジュニアのための他愛ないダンスだと思ったら、童謡が現代音楽に変わり、何やら〝狂気〟さえ感じる展開を見せた。神原の新境地として発展させてほしい。

社会の矛盾描いた〝大人の寓話〟

むすび座「チト」

人形劇団「むすび座」の「チト～みどりのゆびをもつ少年」（6月16日・名東文化小劇場）を見た。同団の創立50周年記念作品として制作され、2017年夏に初演。20年から全国で巡演する予定だったが、コロナ禍でストップが掛かった。

「チト～みどりのゆびをもつ少年」

しかし初演時の反響が大きく、劇団内でも「代表作にすべき作品」の声が上がった。そして今年の夏休みの全国巡演が決まった。

実際に「チト」を見て思った。「これは大人の寓話である」。主人公チトの父親は世界的な武器商人で、チトの住む町は父親の経営する武器工場で潤っている。幼いチトはそれを知らない。「チト」は現代社会が抱える理想と現実の矛盾をテーマにした〝問題作〟なのである。

正直、子どもたちには難しい。だが客席の大人たちはどっぷりドラマに入り込んでいる。大人と子供が逆転したような、不思議な光景だった。

感心したのは俳優たちの運動量がすごいこと。登場人物の大半は「ライオンキング」のように仮面や着ぐるみを自身と一体化させている。通常の演劇の2倍も3倍も体力、気力が必要になる。座員が一丸となり、良い舞台を見せることに精力を注いでいる。むすび座は、まさにプロの集団である。

喜劇に悲劇、そして意外な快作も

「街角のめるへん」

脚本家の発掘と育成を目的に、麻創けい子がスタートさせたドラマリーディング「街角の童話（めるへん）」の第5章公演が行われた（7月9―11日・イーブルなごや）。

今章は①白石栄里子・作「婚礼箪笥」②北野和恵・作「鬼退治」＝写真③加藤紀子・作「オーシャンブルーの風」の3作。出演は石黒寛、光本基江、鈴木幾子、小嶋彩子ら8人。演出は麻創。

「婚礼箪笥」は喜劇で「オーシャンブルーの風」は悲劇だったが、共通しているのは、あまりにうまく、まとまり過ぎていること。保守的な中高年には歓迎されると思うが、演劇ならではの意外性や神秘性が欲しい。

その点「鬼退治」は意外性、神秘性と〝官能〟を併せて持つ秀作だと感じた。主人公の少年に、人形を使ったことも成功だった。

俳優陣では全作に出演した川瀬邦成、「鬼退治」のキーパーソンを演じた小嶋が際立った。「婚礼箪笥」で弾けまくった山口未知は、「鬼退治」の人形遣いとして新たな魅力を発揮した。「オーシャンブルーの風」の清水陸子の佇まいも素敵だった。

（ウエノ）

演奏家育成するスタクラ・アカデミア
飛躍期待される第2期合格者10人

クラシック演奏家の育成プロジェクト「スター・クラシックス・アカデミア」の第2期合格者10人が決まり7月から講習が始まった。

「スタ・クラ」のオーディション

メニコンを主体に90社以上の企業の賛助で、一般社団法人スター・クラシックス協会を設立。18～30歳を対象にした1年間のコース。

今年3月までの募集に、東海地方を中心に東京、大阪などから27人が応募。第一次は書類、演奏動画の審査、二次は面接、実技の審査で、演奏技術のほか、音楽に対する姿勢や意欲、将来性などを総合的に判断した。

ピアノ、声楽、ヴァイオリン、フルートなど、さまざまなジャンルの、個性豊かな10人が選ばれた。

プロとして通用する自己プロデュース力の養成が目的で、演奏技術の指導はない。演出家の岩田達宗、作曲家の加藤昌則、歌手の藤木大地、アナウンサーの平野裕加里ら幅広い専門家から月に数回の講義を受ける。

その間にCBCラジオに出演。来年3月末に成果を発表するコンサートを開く。その後も演奏活動をサポートするなど画期的な内容。来年以降も募集を続ける。

2期生は次の通り。

【フルート】齋藤華香（21）、星野奈菜美（28）
【オーボエ】大河真矢（20）
【ヴァイオリン】大光嘉理人（26）
【ソプラノ】武藤愛友花（23）、安藤莉子（18）、潟美瞳（23）
【ピアノ】金原あかり（23）、土屋宗太（24）、佐藤愛（28）

◇推奨公演◇

◆民謡と端唄・蟹江尾八会「民謡（うた）は旅人」8月9日（正午）芸術創造センター。地域に埋もれた民謡の発掘、採譜、復活をライフワークにする蟹江尾八と、一門の43人が自慢ののどを競う。入場無料（要整理券）。TEL052（853）0261。

◆現代舞踊・倉知可英「DANCE YARD」8月12日（午後3時30分、6時30分）13日（午後4時、7時）千種文化小劇場。共演は12日が磯村崇史、加藤おりは、13日は北田学（クラリネット）、伊藤志宏（アコーディオン）。全自由席3000円。TEL052（841）5072。

◆ゆうこ♡バレエスタジオ「Ballet Festival」9月4日（午後6時）芸術創造センター。吉見優子による創作バレエ「森の精霊達」を主作品に、「眠れる森の美女」（第3幕グラン・パ・ド・ドゥ）、「白鳥の湖」（黒鳥のグラン・パ・ド・ドゥ）ほかを上演する。全指定席1000円。TEL052（508）5095。

◆日本バレエ協会中部支部「第42回中部バレエフェスティバル」9月4日（午後1時、6時30分）アートピアホール。東海地区17のバレエ団が、クラシックや創作作品を出す。全自由、一般3500円、小学生以下2000円（当日は各500円増し）。TEL090（8547）0518。

BALLET・NEXT公演 オーディション

「春の雪」
演出・振付：市川 透　原作：三島由紀夫「豊饒の海」より　音楽：ベートーヴェン
2022年1月15日（土）・16日（日）◎場当たり／ゲネプロ：14日（金）
名古屋市芸術創造センター

リハーサル　2021年9月～土・日・月の予定 ※日程は配役別
参加費用　公演維持費 30,000円　チケットノルマ（配役により異なる）

オーディション詳細
日程　2021年8月22日（日）12:00～14:00　8月23日（月）・30（月）11:00～13:00
会場　スタジオMOVE（地下鉄東山線 一社駅より徒歩4分）
◎参加費　3000円
◎募集人員　バレエ歴5年以上、小学5年生以上の女性・男性
◎内容　クラスレッスン形式（ポアント有）
◎採用結果　採用内定は当日発表、後日配役通知にて正式採用
※諸事情によりオーディションに参加できない場合はお問い合わせください

申込方法　BALLET・NEXT 事務局
〒465-0095 名古屋市名東区高社 2-158-1　TEL / FAX　052-779-0756
http://www.studio-move.net/bn/　申込サイトのQRコードはこちらから➡
SNSからの申し込みも可能です➡ Facebook：BALLET NEXT / Instagram：balletnext412

勅使川原三郎「羅生門」を踊る

8月11日 芸術劇場大ホールで

「羅生門」記者会見（ⓒ Naoshi Hatori）

愛知県芸術劇場の勅使川原三郎芸術監督による新作ダンス公演「羅生門」が8月11日(午後7時)同大ホールで上演される。

芥川龍之介の同名小説を原作に、勅使川原が演出・振付・照明・美術を担当し、ダンサーとして出演する。共演は佐東利穂子、独ハンブルク・バレエ団のアレクサンドル・リアブコ。音楽は笙奏者の宮田まゆみ。

勅使川原は「荒廃した平安時代を描いた原作には、非日常の中に今の私たちが共有できる人間の本質がある。混乱、絶望の中にしか見られないことをダンスにしたい」と構想。

リアブコは勅使川原とは初共演。「コロナ禍の厳しい状況だが、いつもと違う新しいプロセスで取り組み、乗り越えていきたい。今までにない経験を楽しみたい」と意気込む。

佐東は「知っている原作でも、勅使川原が創作すると、思いも寄らない作品になる。作品がどこに向かうのか、私自身の体と技で向き合いたい」と話す。

勅使川原は「小説をダンスに翻訳するのではなく、人間として感じたことをダンスにしたい」と語った。

全席指定、S7000、A5000、B3000円。(25歳以下は半額)。TEL052(972)0430

舞台批評

テアトロ「トスカ」

様々な形式の「トスカ」を見てきたが、今回ほどのめり込んで観賞したことはない。名古屋テアトロ管弦楽団／合唱団の第3回公演「トスカ」（コンサート形式、7月11日・東海市芸術劇場大ホール）である。

のめり込んだ原因の一つは、明快で詩的な字幕だ。歌詞だけでなく、状況を説明する〝ト書き〟も付き、主要人物の人間性までもが露わになった。嫉妬（しっと）深いトスカに、恋人のマリオは「君の愛も怒りもすべてが僕の喜びだ」と答える。何とも憎い和訳である。

指揮は佐藤正浩。テアトロ設立時以来、団員の信頼を得る名匠である。タイトルロールは上井雅子、マリオには宮崎智永、敵役の警視総監スカルピアには桝貴志（東京二期会）が配役された。

コロナ禍のうっぷん晴らす大熱演

トスカ・上井雅子、指揮・佐藤正浩

第1幕ではオーケストラの歯切れ良いサウンドが際立った。コロナ禍で1年延期された公演の、うっぷんを晴らすような力強い演奏である。ソリストでは宮崎が抜群の出足。名曲「妙なる調和」に聴衆はうっとり。客演した東海児童合唱団の澄み切った歌声、愛くるしい表情にも心が和んだ。

好色、強欲なスカルピアがトスカに刺殺される第2幕。協賛軍の勝利にマリオらが熱狂するシーンの、オーケストラの爆発的な演奏は今公演のハイライトだ。残念だったのはスカルピアを演じる桝が好男子すぎて、悪党に見えなかったこと。

熱演の続いた出演者に疲れが見えたのが最終幕。演奏面でも演出面でも幾つかの失策があった。救いはトスカのハイトーンが(力が抜けたせいか)美しく響きわたったこと。コロナ禍の厳しい状況下、出演者の2年間の努力に敬意を表したい。

「歳三を愛した女」

待たれる地元キャストでの再演

「歳三を愛した女」(ⓒMichitaka SUGIE)

動乱の幕末期、新撰組副長・土方歳三にスポットを当てた和製オペラ「歳三を愛した女」(制作・メニコンビジネスアシスト）が名古屋で初演された（6月17、18日・千種文化小劇場）。原作はあおい英斗、作曲は中村匡宏、演出はオペラユニット「ザ・レジェンド」の吉田知明が務めた。

主役の歳三（菅原浩史）以下、出演者10人のうち8人をザ・レジェンドのメンバーが占めた。同ユニットは、2006年に国立音大出身の男性オペラ歌手5人により結成、今年15周年を迎え、新たに3人のメンバーが加わっている。

タイトルの〝女〟を演じたのは宝塚歌劇団出身の蘭乃はな。紅一点、蘭乃のしとやかな歌声と立ち居振る舞いが清涼剤となり、力強い男のドラマを際立てた。冒頭、伊藤博文（柿迫秀）との絡みは絶品だった。

正八角形の舞台面、そして背面に投影される映像も見事だった。ドラマにシンクロする炎や稲妻、飛び散る血しぶき、床に敷かれた畳の画像にも感心した。だが通俗的な展開や、チャンバラ・シーンの演出には改善の余地がありそうだ。

メニコンオペラは今回が3作目になるが、再演の度に修正されレベルが上がる。「歳三～」もそうなるだろう。また再演の折には、ぜひ地元のキャストで上演してほしい。ザ・レジェンド版に劣らぬ舞台になるはずだ。

本多信明の名唱に豊かな将来性

オペラ「樹（こだち）」

この声楽家たちの熱演熱唱を、美しい舞台美術や照明、衣装で見たかった―。そう実感したのがオペラ歌手集団「樹（こだち）」の公演（6月27日・しらかわホール、写真）である。

「樹」はバリトン歌手の妹尾樹が1999年に設立、2003年からは毎年コンサートを開催している。18回目となる今回はプッチーニのオペラ「ラ・ボエーム」「蝶々夫人」「トスカ」の名場面を抜粋して上演した。

出演者は14人。森本ふみ子、つじ村ふみ惠、平尾憲嗣、妹尾樹ら東海地区ではおなじみの面々。大半が期待通りの実力を発揮したのだが、残念だったのは冒頭の通り、スタッフワークに満足な配慮が成されなかったこと。

収穫は「ラ・ボエーム」のロドルフォと「蝶々夫人」でピンカートンを演じた本多信明の美しく力強いテノール。コロナ後の二期会をけん引するであろう逸材である。

酒井伸代のナビゲーションも巧みだった。オペラ初心者には十分とは言えないまでも、字幕の代用は果たした。二人のピアニスト(舘美里、松下寛子)も良い仕事をした。

歌詞に込められた情景が浮かんだ

ソプラノ山口雅子

名古屋二期会のプリマドンナとして活躍した山口雅子が、久々の「ソプラノ・リサイタル」(6月28日・宗次ホール）を開いた。開場時のホール前には入場を待つ人々があふれた。相変わらずの人気ぶりである。

この日の前半は和服姿で「夏は来ぬ」「おてもやん」などの唱歌や民謡。後半は赤いドレスでアリア「さようなら、愛しいヴェネツィア」や武満徹の「翼」などを歌った。「好きな歌を集めた」(山口）プログラムである。

1曲1曲に心のこもった歌唱である。山口には歌詞に込められた情景がはっきり見えている。だから聴衆の胸に届くのである。「年齢を重ねることで、歌詞への理解が深まる」とも語る。登場するだけで会場が華やぐ天性のスター。まだまだ歌い続けてほしい逸材である。

主人公と演者が鮮やかに同化した

竹元まき子「阿国」

俳優として、舞踊家として、豊富な舞台実績のある人ならではの、優れた朗読劇だった。竹元まき子による「新版・出雲の阿国」（演出・木村繁）である。

有吉佐和子の原作を精査、要約した台本（鈴木龍男）は明快で、阿国と竹元が無理なく同化する。それは竹本の立ち居振る舞いや舞踊術、芸人としての経験があってこそ。さまざまな女優の、さまざまな形態の「阿国」を見てきたが、竹元版は群を抜く。

照明（御原祥子）、音響（加藤久直）の仕事ぶりも驚くほど繊細で、劇中の囲炉裏（いろり）小屋の情景などは秀逸。揺れる炎や弾ける火玉、暖かさまでもが伝わった。

後半は出雲の斐伊川をめぐるエピソードに重きが置かれ、前半の印象が途切れてしまった。

それにしても、幕開けと終幕の竹元の手踊りは巧みだった。若き日の阿国は、こんなふうに人々を魅了したのだろう。

（7月2―4日・北文化小劇場）

閲奏曲

詩・歌の碑に出合う旅の楽しみ

島崎藤村の詩や小説を読んで以来、一度はと思っていた長野県小諸市の懐古園をやっと訪れた。城跡に藤村記念館や、「千曲川旅情の歌」の碑のほか、たまたま「惜別の歌」の碑を見つけた。

〝遠き別れに耐えかねて…の「惜別の歌」は、小林旭の歌唱で知られているが、藤村の詩だったことを思い出した。

詩歌の碑を見るのも旅の楽しみで、最近、日本三景の松島（宮城県）で「どんぐりころころ」の碑に偶然出合った。

数年前には、安曇野を訪れたのを機に「早春賦」の碑を見てきた。

東海地方で有名なのは、渥美半島の先端にある「椰子の実」の碑。これも藤村の詩で、そこの浜辺に実際に椰子の実が流れ着いた話を聞いて、詩想を膨らませたという。

事前に知っていて訪れるのもいいが、偶然に見つけると、もっと楽しい。

当然だが、どんな歌にも故郷があり、作られたいきさつがある。それを知ったうえで聴くと、いっそう共感が増して、感慨深いものがある。

（上原　宏）

私たちは「ナゴヤ劇場ジャーナル」を応援します

青山　皆江　小野田加利　手塚　淑子
秋田巳喜子　加藤　静子　戸田美江子
浅井　尭子　金澤　志保　中川　幸作
荒川　洋子　蟹江　尾八　仲条　優理
飯田みち代　北村　哲也　夏目　久子
出田　光代　黒沢　優子　名鶴ひとみ
伊藤　修　工藤寿々弥　西川　長秀
伊藤　敬　佐藤　典子　野々山保治
伊藤　直樹　佐藤美智子　野村　祐子
稲垣　舞比　澤脇　達晴　服部　節子
斎　干龍　清水　房子　花柳　磐優
植村麻衣子　白樺　八青　林　雅仁
内田　寿菊　すぎうらとしはる　福井　啓子
内田寿千代　杉江　瑠美　渕本晴都子
内田　寿晴　鈴木久美子　松波千津子
内田　寿哉　鈴木　文雄　松本　道子
内田るり翠　須山　仁美　見波　紀子
内田るり千鶴　角田真優美　宮原　由布
内田るり美　髙橋はじめ　宮西　圭子
大寺　資二　武市　孝三　山口　雅子
岡田　一男　竹元まき子　吉田　尚弘
岡田　純奈　田淵友佳理　よしみゆうこ
岡崎　保彦　玉田　弘子　渡部　千枝
小倉ひろこ　つつみあつき　ほか

和光写真／㈲テス・大阪／㈱三光／Hide Dance Lab.／㈲ビデオ教映社／松岡伶子バレエ団／川口節子バレエ団
NORIKO BALLET STUDIO／かやの木芸術舞踊学園／春日井市日本舞踊協会／メリー・アーティスツ・カンパニー
特定非営利活動法人日本室内楽アカデミー 理事長 佐々木伊利子／Office KAN／ミュージカルアカデミーKAO
フィルハーモニカー・ウィーン・名古屋／明珠会　山村楽乃／川島ナナバレエ団／スマイル・ミュージカル・アカデミー
Rose Ballet Academy／越智インターナショナルバレエ／Rrバレエスタジオ 杉江瑠美

会員募集

「ナゴヤ劇場ジャーナル」では発行をご支援いただけるサポート会員を募集しています。会費は年間6600円（税込み）。会員には小紙を毎号お届けするほか、紙面にお名前を掲載（希望者のみ）。会員の関係する公演、イベント情報を優先的に掲載させていただきます。

お申し込み、お問い合わせは㈱マネージメント・プロ TEL052（508）5095。

郵便振替口座00880―6―206130。

上原宏の☆音楽☆聴き歩き

充実の四重奏でフォーレの魅力

レーベインムジーク

ピアニスト桑野郁子が中心のレーベインムジークによるフォーレ室内楽全曲演奏会、第3回は「華ひらくエスプリ」（6月6日・電気文化会館）。

最初が「ヴァイオリンソナタ第1番」、最後は「ピアノ四重奏曲第1番」で、代表作がそろった。ソナタはヴァイオリンの小坂井聖仁が、豊かな音で成長を感じた。桑野のピアノと違和感がない。

ヴァイオリン日比浩一、ヴィオラ小坂井、チェロ高木俊彰、ピアノ桑野による四重奏は、フォーレの魅力が伝わる充実ぶり。特に第2楽章スケルツォが印象的だった。

フォーレに学んだフロラン・シュミットの「ロカイユ趣味の組曲」は、まさにフランスのエスプリを感じる作品。神谷知佐子のハープソロによるフォーレの小品も楽しめた。

次回は10月3日。

〝古き良きアメリカ〟を堪能した

ジョン・健・ヌッツォ

星条旗をデザインしたチラシのタイトルに引かれた「ジョン・健・ヌッツォ、アメリカを歌う」（6月11日・電気文化会館）。期待通り楽しめた。

ヨーロッパ作品が得意かと思ったが、アメリカは彼の母国。前半の「アメリカの古い歌」は、コープランドが19世紀の民謡を編曲した全10曲。「小さな馬たち」「川のほとりで」など、聞いたことのあるメロディーに親しみがわく。

後半は、おなじみフォスターの「夢路より」「故郷の人々」など、音楽の授業で習った懐かしい歌。「シェナンドー」など民謡とともに〝古き良きアメリカ〟を感じた。

高らかに歌い上げるヌッツォのファンには物足りないかもしれないが、私は彼の原点を聴いた気がした。中谷路子のピアノ演奏にもアメリカらしさがあった。

聴き入った、温かな低音の響き

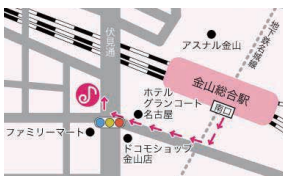
東海バロック

東海バロックプロジェクトによる年3回の室内楽シリーズが再開された。第1回は「低音物語」（6月21日・HITOMIホール）。バロック・チェロ3台が並んだ。

ベテランの髙橋弘治、若手の小野田遥子、小林玉実のチェロに、チェンバロの鈴木美香。作曲者は前半のフレスコバルディ、ガブリエッリ、マルチェッロの名前は知っていたが、後半のクライン、ベルトー、チェルヴェットとなると、バロックファンの私もまったく初耳だった。

しかし聴いてみると、予想以上に魅力的な作品ぞろい。2台のチェロだけのソナタ、髙橋の小型5弦ピッコロとバロック・チェロに、チェンバロとの合奏など変化のある構成。シンプルだが温かさがある低音の響きに、つい聴き入った。

奏でる人を聴きたい人へ　人と音を結ぶ
クラシック名古屋
052-678-5310
金山総合駅 南口より徒歩3分
名古屋市中区正木4-8-7 れんが橋ビル1F



クラシックコンサートのチケットは
アイ・チケット 0570-00-5310
(11:00～16:00 ※土日祝休)
アイ・チケット web 検索
※お好きな時間にお好きな席を選んでクリック!!
スマホチケット[電子チケット]導入。(利用できない公演もあります)
カード決済・コンビニでのお支払いができます。

クラシック名古屋のプレイガイド
「アイ・チケット」
多くのクラシックコンサートのチケット販売から、ホール、座席のことまでオペレーターが丁寧に対応いたします。
ホームページからもチケット購入ができる、便利なクラシック専門のプレイガイドです。